

花鳥餘情

一



第一

相臺

第二

第本

第三

宣輝
夕部



僧正慈海

先達乃志... 花鳥餘情と名はく... 作意

紫日記を... 物一行... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

日本紀... 日本紀... 日本紀...

宇治大納言物... 鴨長明... 日本紀... 日本紀... 日本紀...

但親王御中元服了了爲^レ引出物了了^レ也
わ^レく^レ家^レの^レ制^レあり^レ御^レ中の^レ儀^レに^レて
多^クあ^リま^シれ^ルを^レい^ハす^レる^レ物^レなり^レ事^レに^レて
可^レあ^リま^シる^レに^レ付^テ物^レの^レ作^レ様^レ也

因史云湯成文自元慶七年七月自乙巳勅^レ仁^レ年^レ子^レ
以来主鷹司^レ爲^レ創^レ女^レ人^レ大^レ少^レ才^レ食^レ新^レ每^レ月^レ充^レ後^レ司
其中^レ割^レ爲^レ創^レ十^レ人^レ大^レ十^レ才^レ新^レ免^レ藏^レ人^レ不^レ自^レ觀^レ二^レ年^レ以^レ後
置^レ官^レ人^レ新^レ申^レ停^レ心^レ今^レ鷹^レ司^レ十^レ人^レ大^レ十^レ才^レ新^レ永^レ以^レ食
免^レ藏^レ人^レ不^レ

村上天白^レ記^レ天^レ德^レ五^レ年^レ正^レ月^レ十七^レ日^レ自^レ陸^レ奥^レ不^レ進^レ爲^レ大
於^レ侍^レ所^レ爲^レ之^レ助^レ信^レ朝^レ忠^レ和^レ旨^レ令^レ申^レ以^レ改^レ所^レ春^レ去^レ仲^レ道
喪^レ之^レ同^レ以^レ源^レ教^レ權^レ乃^レ所^レ爲^レ創^レ以^レ件^レ例^レ近^レ府^レ生^レ云^レ因^レ道^レ喪

之^レ同^レ以^レ源^レ撰^レ叙^レ補^レ所^レ爲^レ創^レ仍^レ令^レ補^レ撰^レ撰^レ故^レ汝^レ男^レ之^レ同

所^レ記^レ云^レ康^レ保^レ二^レ年^レ七^レ月^レ廿^レ日^レ侍^レ務^レ人^レ以^レ延^レ之^レ初^レ片^レ之^レ乃^レ助^レ滿

仲^レ右^レ之^レ府^レ生^レ云^レ云^レ高^レ兄^レ右^レ侍^レ等^レ右^レ之^レ青^レ長^レ掃^レ唐^レ自^レ理^レ本^レ右^レ平^レ儀^レ

等^レ並^レ乃^レ所^レ爲^レ創^レ

出^レ右^レ記^レ云^レ天^レ元^レ二^レ年^レ四^レ月^レ廿^レ五^レ日^レ自^レ昨^レ日^レ徒^レ出^レ羽^レ田^レ爲^レ八^レ聯^レ大^レ八

才^レ令^レ爲^レ物^レ忘^レ今^レ日^レ以^レ侍^レ長^レ等^レ不^レ熱^レ才^レ等^レ辟^レ月^レ鷹^レ爲^レ出

自^レ侍^レ不^レ候^レ所^レ爲^レ下^レ所^レ爲^レ之^レ出^レ不^レ果^レ出^レ初^レ未^レ幸^レ太^レ自^レ仙

花^レ門^レ院^レ所^レ令^レ信^レ一^レ各^レ幸^レ出^レ其^レ後^レ百^レ大^レ創^レ未^レ所^レ各^レ幸

出^レ務^レ人^レ以^レ蒙^レ勅^レ令^レ班^レ給^レ鷹^レ大^レ才^レ所^レ爲^レ才^レ未^レ被^レ奉^レ青^レ官^レ

次^レ賜^レ近^レ江^レ信^レ所^レ不^レ次^レ所^レ爲^レ創^レ才^レ相^レ取^レ之^レ出^レ西^レ陣^レ下^レ所^レ出

更^レ酒^レ奉^レ官^レ之^レ接^レ給^レ下^レ爲^レ相^レ未^レ然^レ後^レ給^レ信^レ所^レ不^レ出^レ爲^レ創

者^レ之^レ不^レ知^レ先^レ例^レ也^レ所^レ爲^レ才^レ給^レ才^レ也

花鳥餘情第二

第一本

二二二

以新為春者けはるる花鳥のまゝに春の鳥は十た
花中好む給可事此は春の鳥に
初暈のまゝに十た花のまゝに
十たは十たの事物に十たは十たの
初暈のまゝに十た花のまゝに
三年十たの事物に十たは十たの

花鳥のまゝに十た花のまゝに
初暈のまゝに十た花のまゝに
十たは十たの事物に十たは十たの
三年十たの事物に十たは十たの

花鳥のまゝに十た花のまゝに
初暈のまゝに十た花のまゝに
十たは十たの事物に十たは十たの
三年十たの事物に十たは十たの

花鳥のまゝに十た花のまゝに
初暈のまゝに十た花のまゝに
十たは十たの事物に十たは十たの
三年十たの事物に十たは十たの

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes a small red mark or correction at the top of the first line.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The characters are dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the script.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The characters are dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the script.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. A small red mark is visible near the top center of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. The script is consistent and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the top half of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the top half of the page.

Handwritten text in cursive script, covering the bottom half of the page.

うぶちの男の心をもたすはうらやまの
女の平接しうらやまの心をもたすは
うらやまの心をもたすはうらやまの
うらやまの心をもたすはうらやまの
うらやまの心をもたすはうらやまの

こころの物ごころの物ごころの物
「おの事ごころの物ごころの物
中ごころの物ごころの物ごころの物
うらやまの心をもたすはうらやまの
おの事ごころの物ごころの物
中ごころの物ごころの物ごころの物
うらやまの心をもたすはうらやまの

うらやまの心をもたすはうらやまの
三周院の心をもたすはうらやまの
院一周縁院一周院の方便品はうらやまの
妙法の道理ごころの物ごころの物
非對してごころの物ごころの物
院一周縁院一周院の方便品はうらやまの
院一周縁院一周院の方便品はうらやまの

うろつきの修め三車一にのたふしりく三業に
あり一業一帰一丁らむむらひのて中根を色間
須善提迦梅延迦葉同連一とて心信解品葉
等茶ふまてと茶院の述及授記之次、因縁院一因
化城喻あけしふいさま久き初、大通智勝佛と
り如年の法華と院のよとまう一の中は退居
乃思ひいさあしく小業と修のましく中又入るるの
院法をきいて回心向人の色間とまむ、因縁とまむ
て下根の千二万人、淨身、授記一のまの法理
とまむ、とていさあしくしりてりまの修り一この
因縁とまむ、とて三因のしりてりまの物修のほしり
とまむ、あひまむ、とて世俗文字の業相を修諸の修

らとあしめて、備佛業の因將法揚の縁とまむ、
下ろ初半おしり、自らして法の師あむ、と
しり、とたむ、とて、まむ、とて、しり、とて、
思ひて、とまむ、とて、

百にられりこころしり物

初家のるまうり、善量の高業の高

点所 西交之書不在式乳、内東映中書、有

別當 五位修人須

かゝられて、とて、あ

雅兼の記、天永元年三月廿日、佛被語、事一、難憶也
一、名語、曰、修仰、金屋子、と、望、と、望、の、深、に、こ、廣、高、修、と、思
昔、上、年、於、深、に、者、自、廣、之、者、不、其、者、然、而、彼、取、有、書、并

或る家へ行く事ある事ありあは

才十女候事おの御

おの事いふ事いふ事と思はし

才十女候事おの御

いふ事いふ事 女の伎也

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

わが家の女は嫁にまゐりては白楽人の奉事

吟の家の女は嫁にまゐりては白楽人の奉事

富家の女の得失と偏しある事ありては

嫁娶する事いふ事いふ事いふ事いふ事

ゆきとをいふ事いふ事いふ事いふ事

家の女は嫁にまゐりては白楽人の奉事

申す事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり

いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり

いふことゝもたふといひは物ごとくありて

河海之延封式之十行号の葉并四行号の葉を中
蘇是栝櫟の葉也
今蘇
延喜式曲の葉客式
八十行号の行号の葉とて半のあれとて半のあれと
又半半の半の半の葉行とて半の葉とて半の蘇
いふ葉の中へ不出とて栝櫟とて何もの或
こころの事ごとく一内膳月式供奉雜
菜の中へ有蘇春冬青進五月迄九月午

進一ののり身種の時とてこれと供進を
まの栝櫟とて名と世倍といふまゝの葉
のやを六月の葉といひて常の葉
膳并は物神の倍の事とて世倍といひて
はまの葉といひてまの葉といひてまの葉
いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり

いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり
いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり
いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり
いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり
いふことゝもたふといひは物ごとくありて
まじり

んうんやとてあり

或うこすうりて居

丁て男を女も

才十八位也後石る位

三丈五程のさうく〜ま〜

女乃乃か〜三丈五程とあり〜

い〜い〜い〜い〜い〜い〜

い〜い〜い〜い〜い〜い〜

女乃乃か〜い〜い〜い〜

い〜い〜い〜い〜い〜い〜

のさうく〜

五月ののさう

五月ののさう〜夫とあり〜

徳政の行幸あり〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

ひよあやあと思さ〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

い〜い〜い〜

えあ〜ね移〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

〜に有秋の蒲の伝也〜

君はしるしう 後事しんけつ しのむ 野の春の風
の道 歌よめ とも あり

新しき 花の いろは なる こと あり しのむ 野の 春の 風
の 道 歌よめ とも あり

あはれ しのむ 野の 春の 風
の 道 歌よめ とも あり

あはれ しのむ 野の 春の 風
の 道 歌よめ とも あり

まき事 なる こと

あはれ しのむ 野の 春の 風
の 道 歌よめ とも あり

精舎の 春の 風 なる こと あり
の 道 歌よめ とも あり

Handwritten text in cursive script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific address line.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, appearing to be the final part of the document on this page.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific address line.

Handwritten text in cursive script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The characters are dense and difficult to decipher without a key, but they appear to be a mix of letters and symbols.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines. The characters are dense and difficult to decipher without a key, but they appear to be a mix of letters and symbols.

俗名增島彦市道室秀夏記念

